和歌山
地域面3ページ

和歌山支局
〒640-8154 和歌山市六番丁5
和歌山第一生命ビル4階
TEL073(431)1411
FAX073(433)0650
wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】
橋本 0736(32)0063 新宮 0735(28)1751
海南 073(482)0675 御坊 0738(22)2511
湯浅 0737(62)2870 田辺 0739(26)1026
【広告問い合わせ】 073(423)9291
【購読問い合わせ】 0120-468012

星の占い マーク・矢崎 11日

熊野を思う森の護り人

絵と文・熱田親憲 題字・熱田秦華

熊野古道 みちくさ記 ⑤

林業で古道を維持・再生

発心門王子付近（田辺市本宮町）にて

那智の火祭りを見た後、熊野の森づくりに励む栗栖敬和さんを川湯温泉の「ペンションあしたの森」（田辺市本宮町）に訪ねた。窓際に立つと、木枠の20チャンくらいの高さの場所に色の違いを発見。2011年の台風で浸水した高さという。川沿いの家はみな復興に苦労されたようだ。夕食後、栗栖さんの森づくり談義を聞く機会を得た。

栗栖さんは東京で建築会社に就職。その後ホテル勤務を経て、約20年後に本宮町に帰った。ほとんど手入れされていなかった山林を引き継ぎ、15年くらい山に日参する日が続いた。しかし、将来林業だけでは生計をたてるのは無理だと気づき、1985年からペンション経営も始めた。熊野古道のそばに所有林があり、観光客に気軽に声をかけたり、都会の女性向けの林業体験「山の神汗かきツアー」を約20年間も開催するなどして、山の魅力を人々に伝えておられる。林業の必要性を説く背景や展望をうかがった。

今から約350年前、建築用材や薪炭の需要が高まり、熊野地方でも林業が産業として発展し始めた。その結果、廃道になりかかっていた熊野古道が、山仕事に通う作業道として蘇った。林業が盛んな地域ほど熊野古道の原型が残り、10年前に熊野古道が世界遺産に登録されてからは、訪れる観光客が年々増え続けている。しかし、古道周辺の山林は若い人工林（スギ、ヒノキ）が続くだけで、多様性に乏しい。これでは観光客に満足してもらえないことに林業家として気づき、針葉樹と広葉樹の混成林に変える試みを始めた。間伐を繰り返し、太陽光が地表に十分に届くようにすることで、下草や下層木が芽吹き始め、古道周辺は多様性に富んだ森が誕生するという。

森には地球温暖化効果ガスCO_2の吸収装置という、環境資源の側面もある。熊野の森の文化的価値、地球温暖化防止という二つの役割の維持は地元の人々に任されているが、現場に関わる人は、ほんの少数。もはや限界にきていることを大勢の皆さんに訴えたいという。一方、過疎化した山村に再び人々が戻り、生活が出来るような村づくりのため、森林交付税のような制度も重要だと、最後に結ばれた。

また緊急課題として、熊野古道を守り維持するため、古道周辺をパトロールするレンジャーの育成が早急に必要であると付け加えておられた。

翌日、栗栖さんの山林のある発心門王子付近をガイドしていただいた。まず、社殿に参拝して、鳥居の筋向いの栗栖山地に入り、下層林を育生してスギの森づくりをするさまを説明していただいた。間伐して光が入ることで、眠っていた広葉樹林が芽生えて下層木となり、混成林を形成することになる。これにより保水力、CO_2吸収力の向上が期待できるという。自然の力を借りて森を変えるには、必ず成功させるという信念と時間をかけて待つ忍耐力が求められることを学んだ。これからのデベロッパーにも求められる視点かもしれない。

石寄せて川湯に遊ぶ夏の宵　秦華

（次回は25日掲載予定）